

目的地が決まり、旅程も決まったら訪問する場所を予め調べるのは旅を楽しむために絶対に欠かせない作業である。

1．旅行案内とかガイドブックを調べる。現在は各社からいろんな書籍が出版されているから本屋でよく内容を確認してから購入するのも一つの方法である。

代表的なものを二つ挙げれば次のようなものがある。

地球の歩き方
guidebook

お金と収納場所に不自由しない人には役に立つ書籍を購入するのが一番てっとり早い方法である。しかし、折角購入した書籍であっても自分が訪問する場所について既述されている箇所はほんの一部で過半の部分し必要でない。

そこで旅のノウハウとしては図書館で必要最小限の情報を入手することが賢いやり方となる。

2．図書館で借り出して必要な箇所だけコピーをとる。

現在大抵の図書館では旅行ガイドブックは常設されているから必要な本を借り出すことである。。但し、かなり前広に図書館へ出かけないと借り出し中ですぐには借りられないことがあるから、備え付けのコンピューターで検索して書名、出版社名、筆者を控えて、借り出し予約をしておけばよい。

契約旅行社から届いている旅程表を持参して借り出した書籍と照合しながら必要箇所だけ図書館備え付けの複写機で一枚10円払えばコピーがとれる。

また図書館に行けばガイドブック以外にも参考になる資料は沢山あるので百科事典や歴史辞典などでより詳しい情報を入手することができる。

3．インターネットで検索し必要な資料を取り出し参考になりそうなものをプリントアウトする。インターネットは情報の倉庫である。思いがけない先人の発見にであうことがある。

図書館で必要な情報を探し出すこと。インターネットで検索すること。この二つは旅の計画を楽しむ二つの要素である。

こうして自分で苦労しながら集めた情報は自分の頭の中に自然にインプットされて思わぬところで威力を発揮するから不思議である。

旅の計画を立てる楽しみ・・・旅の服装・・・網地のベスト

海外旅行の場合パスポートは命の次に大切なものであるとよく言われる。そこで落としたり、保管場所を忘れないようにと色々なグッズが考案されている。

古典的なものは腹巻である。腹巻だと腰回りが汗疹にやられるということから、網地の袋に紐をつけて首からぶら下げ下着と上着の間に隠しておくという方法もある。しかしこれは首周りに吊るす紐がのぞき、如何にも貴重品を首に吊るしていますよと宣伝しているようなものであり、感心しない。

最近よく見かける旅装に網地のベストにポケットの沢山ついたものがある。最近はこちらを着用している旅人を多く見かけるようになった。だがこれも如何にも大切なものはここにありますよと宣伝しているようなものであり、その上に風采の上がない姿である。ウエストポーチというのも愛用している人が多いようであるが、これも敵に貴重品の在り処を教えているようなもので頂けない。女性の場合はハンドバッグとか肩掛け鞆に仕舞っている人が多いようだが、これも敵に貴重品の所在を教えているようなもので甚だ危険である。上着の内ポケットに格納する人もよく見かけるがあまりいい保管場所とは言えない。

上記の保管方法は全て試してみたが、一番安全で使い勝手がいいのは下着用に造られた網地のベストの左右の胸にフクロの付いたものである。

これだと噓せることもないし、敵に物を見せないという点で一番優れている。ここへパスポートと大半の現金やカードを格納しておいて、小銭入れは上着のポケットなり、ウエストポーチなり使い勝手のよいところへ入れておけばいい。

要は敵にパスポートや現金の所在が表面から推測できない所に仕舞っておくというのが鉄則である。

旅の計画を立てる楽しみ・・・旅の支度・・・止水栓

旅支度をするとき、止水栓をひとつ荷物の中にくわえておくが大変重宝することが多い。日曜大工の店へ行けば簡単に購入することができる。少し大きめの方がよい。

旅先でホテルに入ったとき先ず最初に点検しなければならないことがある。それは洗面所、便所と風呂場の点検である。最初に水や湯がでるか否かのチェックである。次に止水栓が備わっているかどうかを確かめる必要がある。水が出ない、湯がでないの時は部屋を替えて貰うことになるのだが、止水栓が備わっていない程度の時には持参した止水栓が早速威力を発揮することになる。止水栓が欠けていることをフロントに訴えても直しておきますというリップサービスが返ってくるだけで埒のあかないことが多い。部屋を交換して貰っても次の部屋にまた止水栓が備わっていないということは往々にしてありがちなことである。

万が一止水栓を持参しなかった時の応急措置としては大抵どこのホテルでも常備しているシャワーキャップを排水穴にあてがう方法で凌ぐことが出来る。人によってはゴルフボールを一個持参するとよいと言う人もあったが実験の結果ではゴルフボールではあまり効果がない。

フロントと埒のあかない交渉で無駄な時間を費やしたり、気分を害されたりしないためにも、止水栓は常備されていないものと考えて持参するにこしたことはない。

旅の計画を立てる楽しみ・・・旅の支度・・・洗濯物干し器

旅に携行するものは必要最小限にしたい。そのためには現地調達主義が鉄則である。よく日本食でないと落ち着かないと言って電気炊飯器や米まで持参する人をたまに見かけるが、旅とは非日常の世界に遊ぶことである。これさえ認識しておれば食べたことのない現地の食事であっても興味を持って食べてみるだけの好奇心が欲しい。従って食事は現地で供されるものだけで間に合わせる事が鉄則である。日本食は帰国すれば毎日たべられるではないか。

次に衣類であるが、下着・靴下・ハンカチ類は各々最大限三着以内に留め、まめに洗濯することである。石鹸はどこのホテルでも必ず常備されているからこれで間に合わすこと。洗濯鉢が沢山ついている小型の洗濯干し器をスーツケースに入れておくと重宝する。夜の帰りが遅くて翌日までに乾かない場合でもこれがあると洗面所の狭い空間にでも干しておいて外出できる。掃除に入るメイド達にも気兼ねしないで済むことになる。

洗濯した場合、バスタオルに挟んで脚で何回も踏みつけて水分を取ると乾きがとても早くなる。

折角洗濯したものが乾かないこともままあるが、その時の奥の手はベッドの枕元にあるタングステン電灯の笠に生乾きの洗濯ものを乗せて煎餅焼きの要領で何回かひっくり返しながらかすといひ。意外に早く乾くものである。

旅の計画を立てる楽しみ・・・旅の支度・・・外貨

外国旅行をするときにはその国で通用している貨幣でないとな役にたたない。そこで事前に日本円を外貨に交換して準備することになるが、日本で手に入らない外貨もある。その時は訪問先の空港の両替所かホテルまたは銀行で現地通貨と交換することになる。この時のポイントは使い残さない程度の金額を見積もって交換することにある。

手持ちの通貨は日本円が多いが国際通貨であるドルまたはユーロを持っている場合もある。国によっては日本円が両替できない国もあるのでドルやユーロも日本円の他に多少は持っていた方が便利である。

これらの通貨を現地通貨に両替する時に高額紙幣は不便である。釣り銭を日本円やドルまたはユーロで貰うことは出来ない。多額の現地通貨を貰っても処理に困惑してしまう。従って日本を出発する前に日本円であれば千円札で、ドルであれば10ドル紙幣でユーロであれば10ユーロ紙幣で用意しておくことが外貨準備の要諦である。そして外地では日本の硬貨は使えないので初日の枕銭に困ることがある。そこで1ドル紙幣を10枚程度用意しておくこと初日の枕銭に困るといふこともないしミネラルウォーターを購入する時にも便利である。概ね枕銭はどこへ行っても1ドル程度で充分だからである。

そして現地通貨は千円単位でこまめに現地通貨に両替する心がけが肝要である。

旅の計画を立てる楽しみ・・・旅の支度・・・メモ張

史跡訪問するとガイドが説明してくれることが多い。説明を聞いている時はなるほどと感心したり納得している。歴史上の人物の名前が飛び出してくることもある。ああそうか彼はここで生まれたのか、ここで育ったのかと歴史年表を脳裏に思い出したりしている。その時は覚えたつもりになっているし忘れない自信がある。しかし旅が終わって帰ってくるともうすっかり聞いた話は忘れてしまっている。現地で撮影しまくった写真でもどこで撮ったものであるか判らないということは往々にしてありがちなことである。ことほど左様に人間の記憶力は頼り無いものである。

そこで手帳にメモることが、旅を楽しく記憶に留める有力な手段になる。メモする要点は固有名詞、時、場所、キーワードだけでよい。これさえメモしてあれば事後でもこれらのメモが手がかりになって不思議なほどその時の情景が思いだせるの

である。できればその時自分が感じた印象も簡単に書き留めておくと紀行記を纏めたりするときにとても助かるものだ。

メモるための手帳は小型で掌の中に収まる程度のもので、天を螺旋状の針金で綴じてあり、めくったページを裏に重ねていけるものが使い勝手がいい。小さなポケットにでも収納可能ですぐ取り出せる手帳が便利である。必要な場合ページを千切ってメモとして使うことも可能だからである。

旅の計画を立てる楽しみ・・・旅の支度・・・保険

海外旅行をするときエイジエントは必ず海外旅行者傷害保険に入ることを勧めて提携先の保険会社の申し込み書を送ってくる。保険に入ることは必要であり、エイジェントが推薦する保険会社であれば問題ないであろう。

だが、旅行回数が多くなると都度保険に加入するのも馬鹿にならない金額になる。そこでカードに付帯している保険を利用することを思いつく。カード会員としての年会費を納める契約をすると海外渡航者傷害保険が自動的に付保される仕組みになっているものがある。但し、これを無条件に鵜呑みにしてカードの保険に入っているからという理由で保険をかけないというのは危険である。よく保険約款を読むなり保険会社に電話するなりしてカードの保険で保証される事故内容や保険金を確認しておきたい。

筆者はマスターズのゴールドカードで海外旅行時の保険はカバーしているが、このカード付帯の保険が適用される要件として当該旅行に必要な経費をカードで支払っていることというのがある。そこでこの要件を満たすために成田空港へ赴くための成田エクスプレスの乗車券は必ずマスターのカードで購入することにしている。

旅の計画を立てる楽しみ・・・旅の支度・・・蚊取り線香とキンカン

先進国や寒冷地に旅行する場合には必要ないが、暑さの厳しい地域へ旅する場合には蚊取り線香を携行すると重宝することが多い。ケニアに旅行した時にホテルの部屋の中には昔懐かしい蚊帳がベッドの上から吊るされていた。蚊帳は吊ってあっても中に紛れ込んだ蚊を退治するのは容易なことではない。この時は蚊取り線香を持参していたので難なく蚊を退治することができた。

ミャンマーに旅行したときはホテルの部屋がバンガロー式の独立家屋であり、窓には防虫網が施されてはいたが、部屋の中には蚊が何匹か入り込んでいた。内モンゴルの草原でパオに泊まったときにも蚊が部屋の中にいた。何れの場合にも蚊取り線香を持参していたので安眠することができた。蚊の羽音が気になってよく眠れなかったという同行の人が多かった中で蚊取り線香の威力は絶大であった。

蚊取り線香を持参するような場所へ行く時にはついでにアンモニア溶液を主成分としたかゆみ取り「キンカン」などもスーツケースの中に忍ばせておきたい。

旅の計画を立てる楽しみ・・・旅の支度・・・懐中電灯

中国や東南アジア諸国やアフリカの諸国を訪問するとよく停電にぶつかることが多い。これらの国を訪問するときには懐中電灯が必須の品となる。部屋には停電に備えて蝋燭とマッチが備えられてはいるが、火災の虞れもあるし、部屋の外へ出て廊下を歩く時に蝋燭をかざしてでは足元がおぼつかない。